

# 肩関節運動器 ～くるりんしよるだーJ～

医療法人(社) 日本鋼管病院  
錠内広之

## 【目的】

肩関節の関節可動域改善訓練

屈曲・伸展

内旋・外旋

## 【製作経緯】

当院で行っている脳卒中片麻痺に対する肩関節の随意運動向上を目的とした装具療法において、正確な方向の肩関節運動を自動運動として期待できる道具を検討する過程で製作された。結果的に、脳卒中のみならず、肩の骨折等の整形外科的疾患にも応用出来た。また、肢位の設定により肩の内旋・外旋にも応用できるように改良していった。

## 【道具の機能性】

角度設定: クランプにより調整可能である。

肩関節屈曲/伸展; 180° / 0°

肩関節外旋/内旋; 90° / 90°

レールの滑走性: 木製ビーズを使用。ビーズを通す支柱には廃棄された車いすのスポークを使用している為、針金の歪み等の不具合は生じず、滑走性も良好である。

肢位設定: 肩関節運動として、屈曲・伸展運動と、外旋・内旋運動が出来る。

屈曲・伸展; ビーズレール面を体側と平行になるように設置する。

外旋・内旋; 道具の設置は上記に同じだが、加えて、肩関節外転90°に固定して、肘関節を90°屈曲するように設置する。

## 【使用例】

### < 対象疾患1 >

片麻痺等が原因で不随意運動や振戦を引き起こす内科的な疾患。

### < 対象疾患2 >

肩周辺の骨折、神経麻痺等が原因で関節可動域制限を引き起こしている整形外科的疾患。

### < 使用方法 >

脳卒中片麻痺に対しては、肩関節随意性向上訓練として、肘・手関節・手指の伸展装具(スプリント)と併用して行う。これは、肩関節の随意的な運動を目的として行う場合や、またはセラピストが道具上を他動的に運動させることで、運動の再教育として行う場合もある。運動は、過度な努力的運動にならない様な角度設定に注意が必要である。

上腕骨骨幹部骨折に対しては、肩関節の関節可動域向上訓練として、肘・手関節・手指の伸展装具(スプリント)と併用して行う。特に外旋・内旋運動の自動運動としては、角度設定が容易であり、他動的な運動においても、脱臼等のリスクに対する安全性も高い。

### 【効果】

肩関節屈曲・伸展・外旋・内旋関節可動域改善が期待できる。自動運動以外としても、重錘バンドで負荷する事で、筋力トレーニングやストレッチも含めた他動的な運動も可能である。

上記運動方向において、脳卒中等の不随意運動を制限しながら、正確な運動を行うことが出来る。

## くるりんしよるだーJ

目的	肩関節筋力増強、随意運動の促進
準備素材	ベニヤ板、針金、ビーズ、釘、木工ボンド
使用道具	のこぎり、ドリル、ラジオペンチ、金槌

### 1. ベニヤの切り出し



### 2. ビーズの取り付け



### 3. 倒れないように、足を取り付け完成

## 製作方法



## 使用場面

